

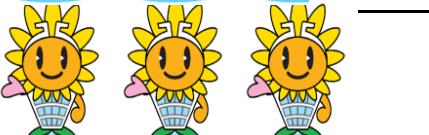
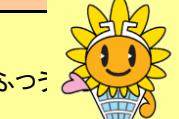
■使用評価マニュアル: 北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト: CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

建物名称	旭興産グループ 真空機器第三工場新築工事	BEE	1	BEEランク	B+	★★★
------	----------------------	-----	---	--------	----	-----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点 [*] /満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.5 /5		
2 地球温暖化対策の推進	3.6 /5		
3 豊かな自然環境の確保	2.6 /5		
4 高齢社会への対応	3.0 /5		
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例 よい 4 点以上	ふつう 3 点以上 がんばろう 3 点未満

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2016年版	使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v.4.01)
1 循環型社会への貢献	スコア平均 3.5
リサイクルに関する配慮	長寿命化に関する配慮
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 3.5
LR2/ 2.2 部品・部材の耐用年数	スコア 3.4
LR2/ 3 対応性・更新性	スコア 3.6
<自由記述>	<自由記述>
・グリーン購入、エコマーク商品の採用	・給水管、給湯管で耐用年数の長い材料を採用
2 地球温暖化対策の推進	スコア平均 3.6
省エネ・省資源に関する配慮	節水に関する配慮
LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 3.2
LR2/ 1.1 節水	スコア 4
<自由記述>	<自由記述>
・省エネ機器の採用	・節水型機器の採用(自動水栓、祇園装置、節水型便器)
3 豊かな自然環境の確保	スコア平均 2.7
生態系保全に関する配慮	緑化に関する配慮
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 2
Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア 3
LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 3
<自由記述>	<自由記述>
	・既存部分を含め敷地内に緑地整備
4 高齢社会への対応	スコア平均 3.0
バリアフリーに関する配慮	主な指標
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	建物の外皮性能 (BPI評価)
スコア 3	非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級 0.63
<自由記述>	建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価)
	非住宅:BEIm値、住宅: - 0.89
	外構緑化指數 26 %
	建物緑化指數 0 %



: 入力欄

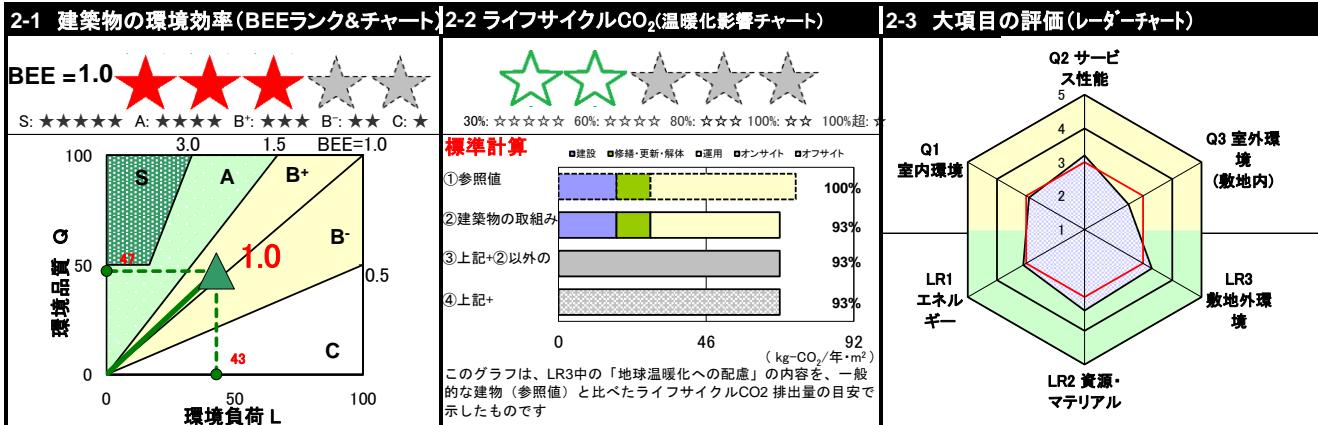


: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	旭興産グループ 真空機器第三工場新築工事	階数	地上4F
建設地	福岡県北九州市門司区新門司北1-3-7-8	構造	S造
用途地域	準工業地域、指定なし	平均居住人員	90 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,960 時間/年(想定)
建物用途	事務所、工場、	評価の段階	
竣工年	2023年1月 予定	評価の実施日	2023年1月10日
敷地面積	24,306 m ²	作成者	稻葉 伸夫
建築面積	2,934 m ²	確認日	2023年1月11日
延床面積	4,327 m ²	確認者	稻葉 伸夫



3 設計上の配慮事項

総合	その他
・敷地内の他の建物と色調を統一、周辺景観とも調和させた。	0
Q1 室内環境	Q2 サービス性能
・F☆☆☆☆建材を使用。 ・喫煙室を4F（屋上）に設け、施設内と分煙を行い空気質環境に配慮。	・階高、天井高にゆとりをもたせ、室内空間の開放感を高めた。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル
・複層ガラスを採用し熱負荷の低減に配慮 ・高効率(LED)を採用しエネルギーの削減	・現場発泡ウレタンフォームはノンフロンを採用する。 ・節水コマ等に加えて、省水型機器（節水型便器等）を使用している。
Q3 室外環境 (敷地内)	LR3 敷地外環境
Q3 室外環境 (敷地内)	LR3 敷地外環境
・敷地内に緑地を設け、温熱環境に配慮した。	・適切な数の駐車スペースを計画

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
旭興産グループ 真空機器第三工場新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

スコアシート		環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	全体
配慮項目	スコア						
Q 建築物の環境品質							
Q1 室内環境							
1 音環境							
1.1 室内騒音レベル	—	3.0	0.15	—	—	—	3.0
1.2 遮音		3.0	0.40	—	—	—	—
1 開口部遮音性能	—	3.0	0.40	—	—	—	—
2 界壁遮音性能	—	3.0	0.60	—	—	—	—
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	—	3.0	0.40	—	—	—	—
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	—	—	—	—	—	—	—
1.3 吸音	—	3.0	0.20	—	—	—	—
2 溫熱環境							
2.1 室温制御		2.6	0.35	—	—	—	2.6
1 室温	—	3.0	0.50	—	—	—	—
2 外皮性能	—	3.0	0.38	—	—	—	—
3 ゾーン別制御性	—	3.0	0.25	—	—	—	—
2.2 湿度制御	—	1.0	0.20	—	—	—	—
2.3 空調方式	—	3.0	0.30	—	—	—	—
3 光・視環境							
3.1 昼光利用		2.6	0.25	—	—	—	2.6
1 昼光率	—	1.8	0.30	—	—	—	—
2 方位別開口	—	1.0	0.60	—	—	—	—
3 昼光利用設備	—	3.0	0.40	—	—	—	—
3.2 グレア対策		3.0	0.30	—	—	—	—
1 昼光制御	—	3.0	1.00	—	—	—	—
3.3 照度	—	3.0	0.15	—	—	—	—
3.4 照明制御	—	3.0	0.25	—	—	—	—
4 空気質環境							
4.1 発生源対策		3.7	0.25	—	—	—	3.7
1 化学汚染物質	規制対象品は全てF☆☆☆☆	4.0	0.50	—	—	—	—
4.2 換気		3.0	1.00	—	—	—	—
1 換気量	—	3.0	0.30	—	—	—	—
2 自然換気性能	—	3.0	0.33	—	—	—	—
3 取り入れ外気への配慮	—	3.0	0.33	—	—	—	—
4.3 運用管理		4.0	0.20	—	—	—	—
1 CO ₂ の監視	—	3.0	0.50	—	—	—	—
2 喫煙の制御	4階喫煙室設置	5.0	0.50	—	—	—	—
Q2 サービス性能							
1 機能性		—	0.30	—	—	—	3.2
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	—	—	—	3.0
1 広さ・収納性	—	2.3	0.40	—	—	—	—
2 高度情報通信設備対応	—	1.0	0.33	—	—	—	—
3 パリアフリー計画	—	3.0	0.33	—	—	—	—
1.2 心理性・快適性		3.6	0.30	—	—	—	—
1 広さ・感・景観	3階事務室天井高3.0m及び窓設置	5.0	0.33	—	—	—	—
2 リフレッシュスペース	休憩室134.92m ² +自販機設置	5.0	0.33	—	—	—	—
3 内装計画	—	1.0	0.33	1.0	—	—	—
1.3 維持管理		3.5	0.30	—	—	—	—
1 維持管理に配慮した設計	WCの床材防汚性の高い材料(抗菌仕様) WCの床面は適度な水を使用して洗浄可能 埃の溜まりにくい設計(壁掛式小便器) 大きく異なる床材の接近なし 外壁面は耐候性の高い塗料を使用 外部鉄部は溶融亜鉛メッキ	4.0	0.50	—	—	—	—
2 維持管理用機能の確保	—	3.0	0.50	—	—	—	—
2 耐用性・信頼性		—	3.0	0.30	—	—	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	—	—	—	—
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	—	3.0	0.80	—	—	—	—
2 免震・制震・制振性能	—	3.0	0.20	—	—	—	—
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.30	—	—	—	—
1 軸体材料の耐用年数	—	3.0	0.20	—	—	—	—
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	—	3.0	0.20	—	—	—	—
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	—	3.0	0.10	—	—	—	—
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	—	3.0	0.10	—	—	—	—
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管、給湯管B(硬質塩ビライニング鋼管) 汚水・雑排水管B(硬質塩ビ管)	5.0	0.20	—	—	—	—
6 主要設備機器の更新必要間隔	—	3.0	0.20	—	—	—	—
2.4 信頼性		2.8	0.20	—	—	—	—
1 空調・換気設備	—	3.0	0.20	—	—	—	—
2 給排水・衛生設備	—	3.0	0.20	—	—	—	—
3 電気設備	—	3.0	0.20	—	—	—	—
4 機械・配管支持方法	—	3.0	0.20	—	—	—	—
5 通信・情報設備	—	2.0	0.20	—	—	—	—

3 対応性・更新性	3.1 空間のゆとり		(事務所用途)基準階階高(3階)=5.2m (工場用途)階高平均(1~4階)=4.2m		3.6	0.30	-	-	3.6		
	1 階高のゆとり		5.0		5.0	0.30	-	-			
	2 空間の形状・自由さ		5.0		5.0	0.60	-	-			
	3.2 荷重のゆとり		-		3.0	0.30	-	-			
	3.3 設備の更新性		-		3.0	0.40	-	-			
	1 空調配管の更新性		-		3.0	0.20	-	-			
	2 給排水管の更新性		-		3.0	0.20	-	-			
	3 電気配線の更新性		-		3.0	0.10	-	-			
	4 通信配線の更新性		-		3.0	0.10	-	-			
	5 設備機器の更新性		-		3.0	0.20	-	-			
6 バックアップスペースの確保		-		3.0	0.20	-	-	-			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.37	-	-	2.5		
1 生物環境の保全と創出					2.0	0.30	-	-	2.0		
2 まちなみ・景観への配慮					3.0	0.40	-	-	3.0		
3 地域性・アメニティへの配慮					2.5	0.30	-	-	2.5		
3.1 地域性への配慮、快適性の向上					2.0	0.50	-	-			
3.2 敷地内温熱環境の向上					3.0	0.50	-	-			
LR 建築物の環境負荷低減策					-	-	-	-	3.2		
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	3.1		
1 建物外皮の熱負荷抑制					5.0	0.20	-	-	5.0		
2 自然エネルギー利用					3.0	0.10	-	-	3.0		
3 設備システムの高効率化					2.5	0.50	-	-	2.5		
4 効率的運用					3.0	0.20	-	-	3.0		
集合住宅以外の評価					3.0	1.00	-	-			
4.1 モニタリング					3.0	0.50	-	-			
4.2 運用管理体制					3.0	0.50	-	-			
集合住宅の評価					-	-	-	-			
4.1 モニタリング					-	-	-	-			
4.2 運用管理体制					-	-	-	-			
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	3.4		
1 水資源保護					3.4	0.20	-	-	3.4		
1.1 節水					4.0	0.40	-	-			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	-			
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	0.70	-	-			
2 雜排水等利用システム導入の有無					3.0	0.30	-	-			
2 非再生性資源の使用量削減					3.5	0.60	-	-	3.5		
2.1 材料使用量の削減					2.0	0.10	-	-			
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.20	-	-			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					3.0	0.20	-	-			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					4.0	0.20	-	-			
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	0.10	-	-			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み					5.0	0.20	-	-			
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.2	0.20	-	-	3.2		
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.30	-	-			
3.2 フロン・ハロンの回避					3.3	0.70	-	-			
1 消火剤					4.0	0.33	-	-			
2 発泡剤(断熱材等)					3.0	0.33	-	-			
3 冷媒					3.0	0.33	-	-			
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	3.3		
1 地球温暖化への配慮					3.2	0.33	-	-	3.2		
2 地域環境への配慮					3.5	0.33	-	-	3.5		
2.1 大気汚染防止					5.0	0.25	-	-			
2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	0.50	-	-			
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.0	0.25	-	-			
1 雨水排水負荷低減					3.0	0.25	-	-			
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25	-	-			
3 交通負荷抑制					3.0	0.25	-	-			
4 廃棄物処理負荷抑制					3.0	0.25	-	-			
3 周辺環境への配慮					3.2	0.33	-	-	3.2		
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-			
1 騒音					3.0	0.50	-	-			
2 振動					3.0	0.50	-	-			
3 悪臭					-	-	-	-			
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制					3.0	0.40	-	-			
1 風害の抑制					3.0	0.70	-	-			
2 砂塵の抑制					1.0	-	-	-			
3 日照阻害の抑制					3.0	0.30	-	-			
3.3 光害の抑制					4.4	0.20	-	-			
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					5.0	0.70	-	-			
2 曜光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30	-	-			